



全員で「老朽原発うごかすな!」と「とめよう原発依存社会への暴走」にかける (6月8日 大阪市内)

石破政権の生活破壊・戦争と対決を 6・8 反原発闘争1200で高揚

6月8日、「もうやめよう あぶない原発!」と「とめよう原発依存社会への暴走」にかける(6月8日 大阪市内) 集会は、全国から1200人が集まった。主催は、老朽原発うごかすな! 実行委員会。使用済み核燃料の乾式貯蔵に反対する全国行動としておこなわれた。

集会の内容

実行委員会を代表して中島哲彦さん(福井県明通寺住職)が主催の反原発運動について、(発言要旨は次号に掲載) 中島さんは「関電と国は乾式貯蔵をおこなうことにより、原発の延命を画策している。大惨事をおこしてからでは遅い。もうやめよう! あぶない原発。関西圏内外に、この声をさらに広めていこう」と述べた。

集会実行委はこの集会のために、長さ4.3メートルの巨大な「紙芝居」(11枚のパネル)を作成しており、これが上演された。紙芝居のタイトルは「原発依存社会へ暴走する政府と電力会社にNOを!」。

各地で原発に反対している人たちが、さまざまな報告があった。①六ヶ所再処理工場、②女川原発2号機再稼働後の状況、③柏崎刈羽原発の状況、④

老朽原発40年廃炉訴訟の基調が凝縮されていた。(名古屋地裁) について。その内容と要旨は、以下のとおり。

①「原発依存社会へ暴走する 政府と電力会社にNO!」 GX脱炭素電源法は2023年5月に成立した。この法律が今年6月に完全施行され、

②「GX電源法で老朽原発を促進 60年超えも可能に」 原発システムは40年運転で設計されている。また、原子力規制委員会が運転期間の延長計画では、今までの

③「運転期間を経産大臣が決定 停止期間を運転期間から除外」 たえば高浜1号機は12年間の停止期間を考慮すれば、合計72年間も運転可能になってしまふ。こんな無茶苦茶なことを許してはならない。

④「第7次エネルギー基本計画 原発最大限活用を明記」 第7次エネルギー基本計画は、今年12月に48年をむ



小雨の中、力強く行進する第3グループ (6月8日 大阪)

大地震)、2828ガル(2024年、能登半島地震)などが観測されている。現実起きてくることにくらべて、原発の耐震基準はあまりにも低すぎる。

⑨「避難は困難 屋内退避も不可能」 東電福島第一原発事故では、最大時で16万5千人が避難した。今年2月末段階でも、2万8千人が避難を余儀なくされている。政府は帰還を促しているが、汚染地域に

⑩「エネルギー政策の失敗 原発依存社会への暴走」 化石燃料は数億年かけて地球に蓄えてきたものだ。それをただか数百年で使い尽くし

⑪「使用済み核燃料の行き場はない 再処理工場は動かさない 乾式貯蔵は永久貯蔵」 電力会社は乾式貯蔵に使用済み核燃料を移す。老朽原発は、いつなにかおきても不思議ではない。老朽原発は、再処理工場の稼働については見通しがたっていない。だから乾式貯蔵は永久貯蔵になる。

⑫「原発は地震や津波に脆弱 余りにも低い耐震基準」 原発の耐震基準は、大きくても1000ガル程度。現実には4022ガル(2008年、岩手宮城内陸地震)、2933ガル(2011年、東日本

⑬「原発の耐震基準の失敗 原発依存社会への暴走」 化石燃料は数億年かけて地球に蓄えてきたものだ。それをただか数百年で使い尽くし

東京電力経営陣の責任を否定

6・6 東京高裁判決弾劾

6月6日、東京高裁は東京電力福島第一原発事故の責任を否定する判決を出した。1審では旧経営陣に13兆円超の賠償を命じていたが、これを取り消した。(詳報次号)



関生・大津2次コンプライアンス事件

控訴棄却の不当判決

6月9日
大阪高裁

企業の法律違反を摘発する活動が「犯罪」であって良いわけがない

大津2次事件は、昨年2月6日大津地裁1審判決で、コンプライアンスビラを配布した7人が無罪(確定)になった一方、現場活動に従事した2人は、恐喝未遂・威力業務妨害で懲役2年6月と懲役1年6月(共に執行猶予6月)の判決が出ていました。

6月9日の大阪高裁・坪井祐子裁判長は、控訴した2人について

大阪高裁前の公園には正午を期して関西圏全港湾大阪支部、全日本ゼネラル支部、関生支部・湯川委員長と発言が続きました。発言者は口々に、「事件に

戻って前段集会がおこなわれました。

大阪全労協の南さんが司会、反弾圧大阪実



大阪地裁(高裁)を一周するデモ行進(6月9日)

一審判決をただただ追認、関西生コン支部の産業政策運動を全否定してこれを「犯罪」と決めつけたのです。許すことができない不当判決です。

行委員会・全港湾大阪支部の小林委員長は挨拶で始まり、京滋実行委員会の服部さん、(東海の会)石田さん、教育合同の高田さん、そして郵政ユニオン、な

がまユニオン、関西合同労働組、ケアワーカーユニオン、きょうとユニオン、大阪全労協、全港湾大阪支部、全日本ゼネラル支部、関生支部・湯川委員長と発言が続きました。発言者は口々に、「事件に

戻って前段集会がおこなわれました。

大阪全労協の南さんが司会、反弾圧大阪実

た。

裁判では、建設現場ごとに、A元組合員はフジタ事件の「恐喝未遂の共犯」、O組合員はフジタ事件・日建事件・東横イン事件の「恐喝未遂と威力業務妨害の共犯」とされていま

した。この日の判決は、「たとえ個別の活動が脅迫とは言えない穏当なものであっても、関生支部の活動が一連一連の指摘の中に事実体のものであるとして契約の変更を威力をもって迫るものであった」と一審判決を追認したので

た。

一審判決維持の結論ありきだった控訴審の訴訟指揮

判決終了後の報告集

会では、弁護士が判決を解説。中井弁護士は「判決は一連一体がキーワード。個別の事実を全く無視している。労組法の刑事免責は使用者に当たらないと切り捨てた。コンプライアンスの指摘の中に事実体でないものもあった等と言っていたが、そのようなものはどこにあったのかの指摘もない」。

太田弁護士は「控訴審になってから一切の証拠の採用を拒否し、一審維持という結論が先にあることが見て取れた。我々が書いた控訴状を全く読んでいない」と発言、上告の手続きに入ったことを報告しました。

続いて湯川委員長が、「訴訟指揮から予想された不当判決だが、怒りしかない。労働法は知らないという裁判官が労働法学者の意見書を証拠採用しない。民事の大阪高裁の星山決定は多数で押し

かけるのでなければコンプライアンス活動は違法ではないとした。何故、刑事で違法になったのか。裁判官がみな悪い人だとは思わない



開廷前、高裁前で決起集会(6月9日)

が、司法はくじのよう

に当たり外れでいいの

では部総括判事を務め

た。

最後に共闘の朝鮮総

連西大阪支部、若狭の

原発を考える会、米軍

Xバンドレーダー基地

反対・京都連絡会が発

言。「これは労働組合

だけの問題ではない」

「関生支部が以前のよ

うな規模の組織に戻る

まで共に闘う」と熱い

エールを頂きました。

愛知連帯ユニオン

(写真は愛知連帯ユニ

オン撮影)

注:「Tag」報道より

坪井裁判長は、どの

が認められなかった。

2010年9月に大津

地裁に再審を申し立て

たが、請求は棄却され

たのだ。その再審請求

審で裁判長を務めたの

が、坪井氏だ。



御堂筋をデモ行進する第1グループ(6月8日)

(2面からの続き)

てしまふ。だから、二酸化炭素(CO₂)が増えてくるのだ。こんなむだ使いをする社会は変える必要がある。

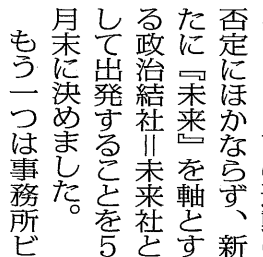
①「原発依存の政治を変えよう! 自然エネルギーのみで成り立つ社会を!」

自然エネルギーは地球環境の保全につながる。原発を動かせば、かならず使用済み核燃料が発生する。原発を動かさなくても、自然エネルギーをもっと増やしていけば、エネルギー不足は解決する。原発の全廃をもとめて、おきなな声をあげ、行動にしよう。

原発のない新しい社会を

大規模メガソーラーや、風力発電をめぐる問題など、今の社会経済体制を前提にしたまま自然エネルギーに転換しても、自動的にすべての問題が解決するわけではない。しかし自然エネルギーは原発に比べてはるかに安全であり、解決方法はいくつもある。

さらにエネルギーの浪費問題。資本主義社会はエネルギーの浪費で成り立っている。この資本主義を変えることが必要だ。核と人類は共存できない。核兵器と原発が存在しない、生産力主義に陥らない、新しい社会主義社会の構想を創り出していこう。新しい社会の建設をもとめて行動していこう。



2025年夏期カンパ時期にあたり、今回は私たちの新たな船出のために、「未来社」改裝200万円カンパ」として訴えます。

既にお気づきかと思

いますが、新聞『未来』の発行所を415号から『未来』新聞社と変更しました。それは私たちは革命的共産主義者同盟全国委員会の正當な関西地方委員会と前進社の関西支社であ

して旧来の前進社関西支社のビルを維持してきましたが、革共同全

国委・前進社の変質と腐敗はあまりにもひどく、もはやその名前――

否定にはかならず、新たに『未来』を軸とする政治結社「未来社」として出発することを5月末に決めました。

もう一つは事務所ビ

郵便振替
 口座番号 00970-9-151298
 加入者名 前進社関西支社

〒532-0002
大阪府淀川区東三国 6-23-16
郵送
未来社

「未来社」として出発する。あたりに、世界的激動の期に労働者階級人民が社会の変革を求めて行動しようとしていると、それらの人々とともに闘う戦略的拠点と酒を盛るのです。

広く人民大衆が集い、闘いの出撃拠点となるため「開かれた未来社」を作りたいと思います。そのため一定の改装で、そのために一定の改装で、社改装カンパとします。期の特刊カンパを未来におカシの振り込

い、じて、事務所ビル全体を人民の闘う砦としていきます。6月〜9月

み先は「未来社」振替

でに声かけを頂いてる方を含め、先ずは200万円のカンパで1階を改造します。それ以降はカンパ頂いて

日比谷野外音楽堂からデモに出発（5月23日）

5.23 日比谷野音狭山集会に参加して

小山 一彦

3月1日に、石川さんが86歳の無念の死を司法権力に強制されてから、70日を超えた。

62年目の5・23日比谷野音集会は、いつにも増して権力への怒りが充満していた。

多くの発言があったが、何よりも石川早智子さんの悲しみを超え、一雄さんへの熱い連帯と司法への強烈な怒りの言葉が私の胸を揺さぶりました。

かけがえのない相棒を失ったさみしさ、悲

しさはいかばかりでしょうか。

生きている内に再審が始まらない悔しさ、憤りはいかばかりでしょうか。

どんなに苦しくても盟友の遺志を継いで裁判を継続していく烈々たる闘志のほとばしり。早智子さんは第4次再審請求の申立人として司法権力、東京高裁家令裁判長に闘いを挑んだのだ。1964年3月11日の内田裁判長による死刑判決、

からの日々一雄さんの
遺品のノートを見直
し、私たちに10の短歌
を紹介して下さった。

・わが黄泉は 遠方
にあらず 悟れども 冤
罪晴れずに 天に逝け
ずや

・天国から迎えに来
る日は いつの日か
まだまだ生きる勝利見
るまで

・裁判官 家令に託
して10人目 期待と不
安で 胸騒ぐ

・今日明日かこの
弟姉妹と 差別根絶

・私が小鳥 縦横無
尽に飛んでいき 冤罪
訴え 支援のお願い

・小鳥は四季を問わ
ず鳴き続け 無罪明白
再審せよと

（一雄さんは自分を
うぐいすに例えて、今
日も日比谷の空を舞っ
ていると思います）

・苦難の日々 命削
り58年 今はひたすら
再審めさず

・次の世も 生まれ
変わればこの村に 兄

2025年3月11日、
一雄さんの命日!! 2度
目の死刑判決! これ
ほどまでも日本の司法
は残酷を極めている。
早智子さんは涙を堪
え、涙を流し、別れて
行く。真相は心の目では
見えぬとも科学の進歩

極みの幾星霜 家令に
正義の英断あるまで
・権力にゴマする司
法聞こえるか 絶叫す
る私の声が

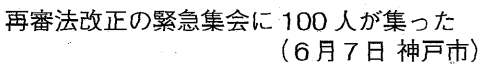
再審法改正求め

国会前・各地で行動

た
戸市)

す。6月3日の国会請願行動は、狭山にとつても大切な闘いです。今日は、最初から一裁判官が誰一人も事調べを決断せずに願いを断ち切りました。中山先生が参加して下さいのお願いです。

再審法改正求め
国会前・各地で行動



狭小事件の再審を求めていた石川一雄さんが亡くなり3カ月。開かずの門Ⅱ再審法の改正を求める声が、全国で澎湃と巻き起こっている。6月3日は国会前で石川早智子さんが雨中で懸命に訴え、

法制審では東住吉事件の青木恵子さんが証言した。6月7日神戸でも青木さんと刑法学者・笹倉香奈甲南大教授などが訴えた。再審法改正のうねりを巻き起こそう。

(詳報、次号)

訂正
本紙414号5面上から5段目、左から18行目の「幹事」を「監事」に訂正します。

反原発自治体議員・市民連盟総会&講演会
講演：末田一秀さん「第7次エネルギー基本
計画」責任逃れの布石もある亡国の計画」
報告：木原壮林さん「自然エネルギーに転換しよう」
と き：6月29日(日) 午後2時〜4時半
ところ：大阪府豊中市庄内コロシアセンターシヨウロ
主催：反原発自治体議員・市民連盟

第6回 辺野古支援者学習会
「ゲート前・海上抗議行動からのレポート」
とき 6月29日(日) 午後2時～4時
ところ 国労会館 大阪市北区／ＪＲ天満駅すぐ
主催 辺野古派遣サポーターおおさか基金

「東大阪でヘイト問題を考える会」
第2回NOヘイト講座
講演 安田浩一さん(ノンフィクションライター)
とき 6月28日(土) 午後2時
ところ 東大阪市文化創造館1階・多目的室
主催 東大阪でヘイト問題を考える会

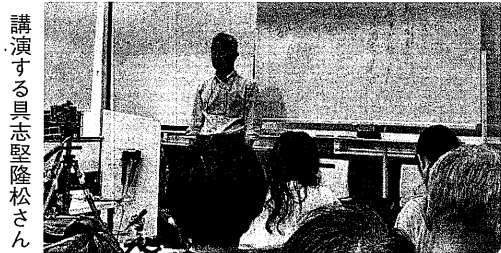
とき 6月22日(日) 午後1時〜2時
ところ J R大阪駅南口うめきた中央交差点
J R太正駅前ほか
主 催 沖繩を再び戦場にさせない実行委員
会(大阪・兵庫)
※詳細はチラシ参照
※スタンディング終了後は、ふりかえり集會会
(P L P會館小會議室B)午後3時〜4時

と き 6月21日(土) 午後2時〜4時半
 と こ ろ 宝塚市立男女共同参画センター1ABR
 (阪急 JR宝塚駅下車)ソリオ2 4F
 主 催 原発の危険性を考える宝塚の会
 沖縄・西日本の軍拡に反対する
 中興救国の日スタディンズ

イスラエルに制裁を パレスチナに平和を
とき 6月21日(土) 午後6時半～7時半
ところ 人民広場 大阪駅東南バスターミナル
主催 関西方ザ緊急アクション
ドキュメンタリー映画上映『原発をとめた
裁判長 そして原発をとめる農家たち』

汚染水を海にながすな！スタンディング
とき：6月21日(土) 午後5時～6時
ところ：JR大阪駅・東南側バスターミナル
主催：汚染水を海に流すな！関西ネットワーク

闘争案内



講演する具志堅隆松さん

「復帰」53年を問う デモと講演 具志堅隆松さんが講演

5月17日 新宿

南部の土砂を使うな
『土砂採取場所として南部は外せ』と防衛省に言ったら『業者が決めろ』と言っていた。南部の土砂はまだ使われていない。(今の時点では)ゼネコンにだめだと言われる。止めているのは皆さん。ゼネコンやその出資者にも

呼びかける。『非人道的なことをやるのか』。『奄美大島の土砂ならいいのか』と問われる。自然遺産だからだめ。浦添西海岸那覇軍港移設先)でも同じ問題がある。基地建設に埋め立てを伴う。(沖縄島)北部の土砂は足りなくなっている。きれいな海は観光資源。

南部の土砂は戦争をしないうちに守らなくてはいい。そういう話をしてい

天皇の名において謝罪せよ

自衛隊は地域に溶け込んでいます。祭りも手伝うし就職先になっている。他国を攻撃する軍隊になったのは変節。最低限「専守防衛」に戻すべき。
『有事においては米軍はグアムへ撤収する』とされている。戦争前の徴候があればそうなる。日米安保は破綻していると言わなければならぬ。安倍が『日本の防衛は日本が責任を持つ』と言っていたが(こうした批判を)言われる前の言い訳ではないか。国民が戦争させないために声を上げる時。

自民党参議院議員・西田昌司は、5月3日沖縄県那覇市で開かれたシンポジウムで、ひめゆりの塔の展示について事実と異なる発言をおこなった。「展示は、日本軍に殺され、アメリカが来て解放された」「沖縄ではむちゃくちゃな教育がなされている」などと、およそ事実に基づかない暴論で直ちに抗議の声が殺到した。

しかし西田は「TPOをわきまえるべきだった」などと謝罪にならない謝罪をしたが、引き続き『正論』7月号で自説を展開している。

この西田の暴論に対し、関西の大阪・兵庫・京都・奈良の沖縄県人会など7団体が抗議の共同声明を出したので紹介する。

西田発言弾劾 関西の沖縄県人会が声明

西田 昌司 参議院議員殿

沖縄戦の真相を歪曲する発言について(抗議)

自民党の西田参議院議員は、5月3日に那覇市で開かれたシンポジウムの講演で、ひめゆりの塔の展示内容について「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆりの隊が死ぬことになった。アメリカが入ってきて沖縄は解放されたという文脈で書いている」「歴史を書き換えられると、こういうことになっちゃう」などと発言、「(沖縄では)かなりむちゃくちゃな教育をされている」とも述べた。その後、ひめゆりの塔に関する発言は「TPOをわきまえるべきだった」として謝罪、撤回したものの、沖縄戦や教育への認識については「事実を言っている」と強弁しています。

この西田議員のいう「事実」の真相はどうであったのか。

沖縄戦では、沖縄を米軍の防波堤にすべく県民を動員して飛行場や陣地を築き、戦場にも県民を駆り立て、師範学校や中等学校の生徒たちも動員されていきました。戦争末期の食糧確保が困難になった頃から、戦争目的を失い山中をさまよう部隊の軍規が崩壊し、敗残兵による横暴な振る舞いや軍刀、手りゅう弾、銃剣で住民を虐殺するという忌まわしい行為が引き起こされ、住民は各地で壕を追い出され、食糧も奪われ、保護されることもなく地上戦に巻き込まれていきました。このような日本兵による住民虐殺は離島を含め県内各地で発生し、「集団自決」(強制集団死)も日本軍に「強制・関与・誘導」され、ひめゆり学徒隊は、組織的な戦闘が終わる直前に解散命令が出され、生徒らは保護する措置もないまま戦場に放り出されて命を落としていったことが数々の証言により明らかになっています。

日本軍の沖縄守備隊は沖縄の住民を守るためではなく、本土決戦を一日でも遅らせて沖縄の陣地を守るための組織であったことが沖縄戦研究で明らかにされ、これらの事実から「軍隊は住民を守らない」が沖縄戦最大の教訓ともなっているのです。

西田議員は、「沖縄ではむちゃくちゃな教育をしている」「占領下で27年にわたって反日教育を受けた人が大人になっていく」とも述べ、「親米反日教育」が行われたと考えているようですが、占領下の沖縄では1948年から日本の教科書が輸入、使用されてきており、戦争体験者の証言と沖縄戦研究に基づいた平和教育が行われてきました。一方、占領下での様々な人権侵害や厳しい弾圧を受けながらも、反米闘争や土地の強制収容に対する島ぐるみ闘争、祖国復帰運動が闘われてきました。

このような沖縄戦や戦後の占領下での真相に鑑みれば、西田議員の一連の発言は、意図的に沖縄戦の真実から目をそらし、ゆがめるもので、戦没者や戦争体験者を冒瀆し、県民の尊厳を踏みにじる暴言と断じざるを得ず、厳しく抗議せざるを得ません。

なお、自民党にはかつて、「激しい地上戦で十数万人の住民が犠牲となり、戦後も27年間米軍の統治下に置かれ、復帰後も辛苦を重ねた」沖縄に対する贖罪の思いと深い慈愛を持って沖縄振興に奔走した、京都府選出の野中広務衆議院議員をはじめとする政治家たちがいました。戦後80年の今日、東アジアの緊張が高まるなか、沖縄と意思疎通を図りながら問題解決に取り組む政治家が求められていますが、分断と対立を煽るのみでは、沖縄の将来、ひいては日本の将来にも大きな禍根を残しかねません。

西田議員においては、今一度沖縄の真実の歴史を学び直し、戦争を忌避する沖縄県民や国民の声を尊重し、軍事に偏らず、戦争回避に向けたあらゆる努力を続けるなかで、外交や経済を含む多面的な安全保障の構築に積極的な役割を果たすことを強く要望します。

令和7年5月 日

大阪沖縄県人会連合会会長 山端 立昇
沖縄県人会兵庫県本部会長 具志堅 和男
京都沖縄県人会会長 上原 任
奈良沖縄県人会会長 名城 健伸
近畿八重山郷友会会長 岡田 紘二
関西宮古郷友会会長 砂川 次郎
関西読谷郷友会会長 向 恵子

展望

-The Perspective-
第32号

最新号
出来!

- 2025年 巻頭アピール 世界的激動の中、石破政権を打倒しよう
*新しい共産主義のために 塩川三十二
*万博破産・女性差別・兵庫斎藤問題
——結党以来最大の危機に直面した維新 剛田 力
*被爆80年 広島・長崎の原爆被害者とその闘い 高田 豊
*投稿:沖縄現地報告 12・22県民大会 島袋利久
*沖縄日誌 2024年3月~9月 東江 明
*9月・11月 西日本反基地交流会 津田保夫
*うち続く女性差別と女性解放の課題 岡田恵子
*書評:駒込武・編著『台湾と沖縄』 島袋純二

『革命的共産主義者同盟再建協議会 理論機関誌』

2025年4月 定価(本体1000円+税) Amazonでも購入可/「展望32号」で検索

(4面からの続き)
人、強盗、強制性交等の凶悪犯の摘発は584件、757人に上り、このうち、強盗が398件、553人と最も多い。次いで強制性交等134件、157人となり、約9割が米軍人による犯行です。
2024年の刑法犯は73件(前年比2件増)80人(同9人増)のうち凶悪犯は2件7人です。2023年4月、沖縄島中部で歩いていった女性に性的暴行を加えようとした米空軍軍属が逮捕。24年10月には海兵隊が面識のない女性に性的暴行を加えようとして負傷させる事件がありました。この事件は米兵が事件後、2025年5月25日、記(つづ)

基地に逃げ込みました。が、監視カメラ等で警察が米兵と特定し基地内でMPに拘束されたり、このうち、強盗が398件、553人と最も多い。次いで強制性交等134件、157人となり、約9割が米軍人による犯行です。
2024年の刑法犯は73件(前年比2件増)80人(同9人増)のうち凶悪犯は2件7人です。2023年4月、沖縄島中部で歩いていった女性に性的暴行を加えようとした米空軍軍属が逮捕。24年10月には海兵隊が面識のない女性に性的暴行を加えようとして負傷させる事件がありました。この事件は米兵が事件後、2025年5月25日、記(つづ)

「ドローンから見た沖縄、 辺野古」集会の報告

6月1日
神戸



奥間さんの話と空からの映像にひきこまれた(6月1日 神戸市)

6月1日、神戸市内で「ドローンから見た沖縄、辺野古」集会が、辺野古の海に基地をつくらせない神戸行動の主催で開催され、120人が参加した。講師は沖縄ドローンプロジェクトの奥間政則さん。

司会が講師紹介した後、奥間さんの話が始まった。まず自己紹介で、奄美大島生まれで両親がハンセン病だった事が今の自分に影響していると言った。それでも1995年の少

女暴行事件の頃は土木の仕事に集中していた。基地問題には無関心だったそうだ。そんな自分が目覚めたのは、両親のハンセン病は戦後の不衛生な生活と戦争が原因と気付いたからだ。また沖縄問題の活動家でも平気で沖縄本島という人がいるが、沖縄島と言っているが、奄美や西南諸島から見れば、沖縄島の琉球王国に支配されていた。このことを忘れてはならないと注意を喚起した。

さて本題の辺野古基地工事については、今地盤改良工事のため海底に砂杭を71000本打つ予定。そのため島の地下には有事を想定

海の下がひびくようになった。全部打つには相当の年数がかかる。完成しても必ず地盤沈下する。台風や地震が来たら軟弱地盤は崩れるだろう。辺野古よりかなり浅い開港でも、毎年地盤沈下している。次に与那国島などの自衛隊駐屯地のドローンが撮った写真を見せながら、樽屋原は軍港化される恐れがあるとか、石垣島陸自駐屯地の新たな電子戦部隊の訓練場や、宮古島の各陸自駐屯地の様子を説明してくれた。空から見ると自衛隊基地と住宅街がいかにか近いかよく分かった。与那国島などでは有事を想定

した避難訓練がおこなわれ、まるで戦争を前にした訓練に、「俺達ここに住むな」ということか」と怒る島民も多いと語った。

最後に奥間さんは禁止区域以外は何処でもドローンを飛ばせるが、基地工事近くでは時々、妨害電波でうまく動かせないことがあるとか。こんなことに負けないからドローンを使った良い写真を見せてくれた。

奥間さんはハンセン病やPFA5問題も含め1時間半の講演を終えた。別の機会にこの話も聞きたかった。

(大北健三)

反戦・反基地・沖縄闘争の連携を 6・6・7 東京で交流会

し那覇市対馬丸記念館前で抗議行動が取り組まれた。
(いずれも詳報次号)

沖縄・西日本反基地ネットワーク交流会は、現天皇一家が沖縄に「慰霊の旅」と称して乗り込んだ。これに対

6月4日と5日に、ネットワーク交流会・東京が、6月6日と7日東京で開催された。これまでの沖縄、呉、大分、鹿児島での交流会の上に、この間の新たな基地建設の問題を東京で全国の課題にするため開かれたもの。交流会にはジャーナリストの吉田敏浩さんの講演と、沖縄・熊本・大分・鹿児島・佐賀・広島・呉、京都・福岡、東京・練馬など基地を抱える運動団体から報告・発言がなされた。



現天皇の訪沖に抗議(6月5日 那覇市対馬丸記念館付近)

治安維持法100年を問う ⑥

刑期満了後も一般社会から隔離 弾圧者たちに天皇が叙勲と賜杯

1931年に始まった、一般社会から隔離した中国侵略戦争の泥沼し「思想改善」を促すことを目的としたもので、争に備えて、治安維持法は度々「改正」され、顕著な者や非転向者、その最後が41年3月の予防拘禁法の導入である。

これは治安維持法田村四朗のように心血を注いで組織した左翼共産主義者や朝鮮独立運動の闘士・宗教家など17人が解放された。

予防拘禁に処された山辺健太郎は、「気楽な生活であった」と回想している。例えば、所長宅の移転作業を手伝わされた被拘禁者が、書棚にあった『レーニン著作集』を所長の了解を得て所内に持ち込んでいる。

三田村の備忘録には、それを読んで重要と思う箇所を書き写し、「異議なし」など書き込まれている。しかし徳田球一と志賀義雄の共著『獄中十八年』には、同書を読んだ形跡が見当たらない。それに先立つ

1936年11月、昭和天皇は共産党壊滅の功績を称えて、内務・司法両省のトップクラスと第一線の特高警察官と48人に、叙勲と賜杯を授けた。これは破格の栄誉であった。

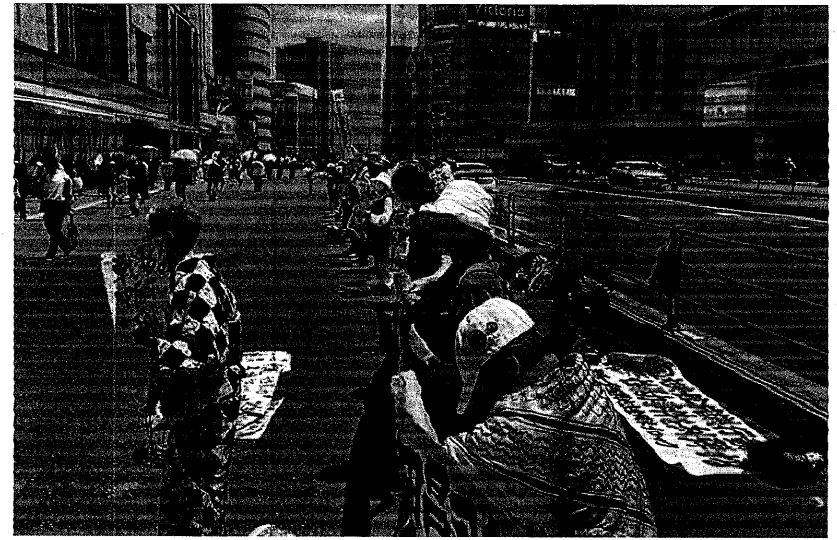
そのころ「左翼」を含む国民のほとんどが、リンゴの歌や青い山脈を口ずさみつつ、自由と民主主義のムードに浸っていた。

1948年6月に起きた福井大地震を奇貨として、同県に公安条例が制定されデモが許可制になった。

それ以降各都道府県で公安条例の制定が相次いだ。東京都公安条例阻止闘争では、東京交通労働組合の橋本金二がデモの最中に警官隊によって殺害されている。

(大庭伸介)

辺野古ブルーアクション 東京・新宿 6月7日

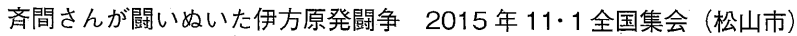


6月7日、東京・新宿駅南口で毎月恒例の辺野古ブルーアクションがおこなわれた。日差しの強い中、70人を超える市民が集まって沖縄の基地被害を訴えた。呼びかけは、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック。

齊間淳子さん

村上 薫

小さな港町だ。この地
で、斎間淳子さんはへ八
幡浜・原発から子ども
を守る女の会、や〈緑
の会〉の中心メンバー
として、反原発運動を
負いながら声を上げた
彼女たちの姿は、当時
の田舎町では異例だっ
た。講演会、学習会、
街頭抗議、行政との交
渉――彼女たちは粘り



ニユアル型の食と農業の生産様式も変えていく手がかりを示す。

著者は非マルクス主義であるが、この書

かもかつては工業との直結を必要とした。そこで資本主義はこの工業を自己の基盤として分離し、それによる農家人口の遊離部分を工業労働力に転嫁することで確立。その発展はこんどは農業をも資本家経営化し、土地所有

また、食と教育の再定義を広げていって、大規模、大量生産・効率が農業へ、あるいは率主義、即効性に満た

第2講では、この「**為**」と再定義する。

「増加を支えた4つの農業の再定義」として、技術として①農業機械、②化学肥料、③農薬、④品種改良、をあく、植物を育てる自然

第1講では、農業を犠牲者になっている。

史を専門とする歴史家の見直しを提起する。立場から「食と農業」の現下のフードシステムは特定の企業に奉仕し、末端の労働者は犠牲。

③

て経済を活性化しようとする仕組みに疑問を投げかける。農業技術の進歩、食の思想史、環境と廃棄の傾向などを指摘して、食の大生産・大消費システムや大量家畜生産システム

藤原辰史著『戦争と農業』は、貴重な手がかりを提起している。

本書の構成は、「はじめに」で、競争によっての根源、世界の食料インフルエンザやオーイシ（牛海綿脳症、鳥インフルエンザやオーイシなど）、食の問題

現下の「コメ騒動」枯葉剤へとつながったことを示す。

をめぐって、コメと農

第3講では、飢餓か

素問題をどうするの

から20世紀の政治を問

か、焦眉の課題として

う。

問われている。

には学ぶ点がある。「環境も資本家的形態をとる。100%を超えた。他方、日本は世界一の環境社会主義」が主張さ

れ、「赤」と「緑」のこの典型的過程が、食料輸入国で、自動車共闘が可能ではないかわりあい純粋に実現したのが重商主義から自由捨てを進めてきた。謝概念への注目や生産由主義段階のイギリスの結果が今日の事態力主義への疑問、略奪であった。後進資本主だ。

農業への批判などを学んだ晩年のマルクスの問題意識に接近しているともいえる。

義としての日本はイギリス的重商主義段階の十分な開花を経由せず、その自由主義段階

農業はもともとと資本主義的生産に適合しない分野であり、資本主義はこれを外部に押し

マルクス経済学からのアプローチ

トラクターが戦車に

藤原辰史著 2017年
集英社インターナショナル新書

に應ずる地主制の残存　ひきおこし、第一次大
をもたらし、帝國主義　戦後になるとその矛盾
段階への移行につれて　を世界農業恐慌という
過小農を温存する政策　形で現実化させること
ええとられた。　よって、世界資本主

戦後、「農地改革」義の構造問題を作り出
などで環境は一変したした。

る。かつてイギリスは内部矛盾をなす階級対立を、他方ではその外

で、諸外国を自らの農業地帯としていたが、帝国主義段階に入って各国は農業・農民保護政策を一般化した。2008年以降、部矛盾をなす農業問題を、共に解決しようのでなければならぬから、社会主義にとって農業問題は重要である。

(山口勉)

第14回さようなら原発1000人集会
原発VS食・農・平和と社会のしくみをかえ
るために、

斎藤知事の味方極小 不信任の危機続く



6月議会開会日 雨中の県庁包囲行動に120人
(6月3日 神戸市)

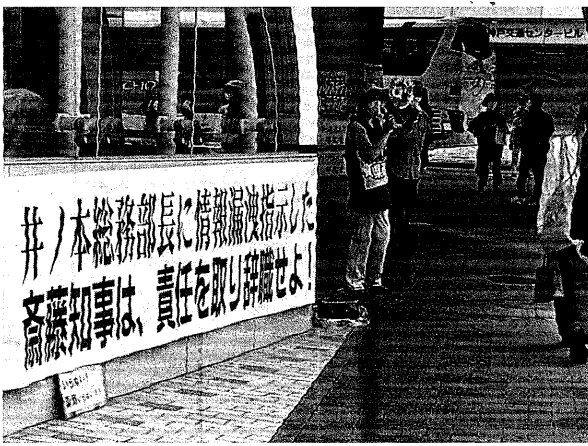
6月議会初日 雨中に120人

若い世代中心の5・25県庁までの1000人デモについて、6月議会開会日の3日には雨中にも関わらず120人が県庁2号館を取り囲んだ。

この日午前11時から県庁公館で県議会本会議が開会。井ノ本前総務部長の情報漏洩が確定し、牛タン倶楽部の他の2人も漏洩指示を認めているが、一人斎藤だけが指示してないと言っている。斎藤は傍聴席を陣取りエールを送るが、終わると力強い非難が浴びせられ、その内容で有罪確定だ。6月県議会では監督責任だけを認め、減給5割・3カ月ヒューマンチェインが開始された。集会は市民デモHYOGOをはじめ、情報漏洩を指示した斎藤知事の辞職を求める発言が続く。途中5・25デモで評判になった「よいやさ」のかけ声や竹内県議の出身地「声(自死した県民局長のウソは次々と暴かす決起が問われている)」のコールが続く。さ

小雨模様の12時、県庁2号館前で第3波のヒューマンチェインが始まった。集会は市民デモHYOGOをはじめ、情報漏洩を指示した斎藤知事の辞職を求める発言が続く。途中5・25デモで評判になった「よいやさ」のかけ声や竹内県議の出身地「声(自死した県民局長のウソは次々と暴かす決起が問われている)」のコールが続く。さ

井ノ本の情報漏えいは犯罪 知事の処分は継続審議



毎週木曜午後、マリン前で斎藤県政問題を軸に訴えを続ける市民デモHYOGOの仲間たち(神戸市三宮)



JR尼崎駅前歩道はカウンター行動の人でいっぱい
(6月8日 尼崎市)

尼崎市議選初日(6月8日) 最大規模の立花弾劾行動

尼崎市議選告示日の行動が、JR尼崎駅車庫選挙区立候補の前哨戦として6月8日(6月8日)に開戦。立花孝志を弾劾された。N国党は7月選に尼崎とは無縁のFを立候補させた。N国党への批判が高まる中、立花は久方ぶりに市民の前に登場した。

「カエレ」のコールがやまない。カウンターのボードは「詐欺師」「人でない」「犯罪者」「竹内さんと丸尾さん」に謝罪しろ」など思いのメッセージが並ぶ。

竹内県議らへのデモ、犬笛居直り

宣伝カーに乗った立花は、相変わらず「西播磨県民局長の」情報を10本も立てたが、迎えたのは300人を超える権利にこたえたもすカウンターたち。昨年の10月知事選以降、兵隊で悪行を重ね、さらにはデマを拡散する立花にこれまでに最大の怒りがさく裂した。立花が登場する前から「ウソつき」「カエレ」のコールが続く。道では立花派の運動員

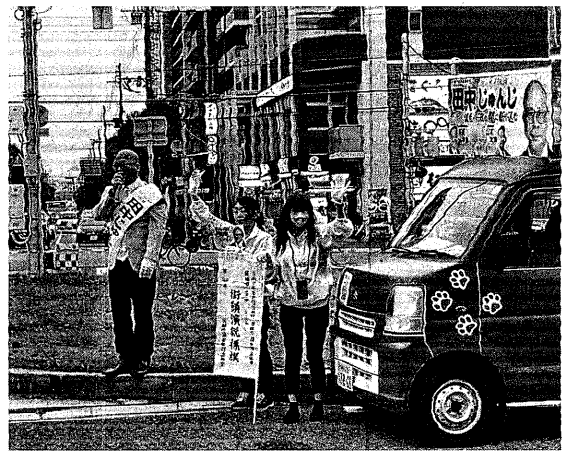


カウンターにとり囲まれる立花たち(6月8日 尼崎市)

と支持者に対し、「立花の犬笛で、人が死んだのをどう思うのか」と弾劾・説得が「帰れ、帰れ」。また立花支援には悪名高き在

特会も久しぶりに登場。他方兵庫県政を追いかけるユーチューバーも録画を発信。2時間近くの弾劾行動が終わりかけるや、県政問題で告発を受審させ。23県民大会でも発言した田中じゅんじ候補の宣伝カーがロータリーを1周。帰りがけたカウンターから思わず「じゅんじ」コールが。車を降りた田中候補は「守るべき人を間違えない。議会・行政の闇に斬りこむ」と訴える。陣営はカウンター行動会でも極少数派になり、選挙に敗北した。昨年11月9日、JR尼崎駅北は3000人の立花の正体を知った戻そう。

の斎藤派に占拠され力市民運動とカウンターと反対派はわは怒りの行動を倍加さずから人だった。稲村に斬りこむ」と訴える。陣営はカウンター行動会でも極少数派になり、選挙に敗北した。昨年11月9日、JR尼崎駅北は3000人の立花の正体を知った戻そう。



立花の演説終了前に田中じゅんじ候補の車がJR尼崎駅に到着(6月8日)